

図書館員のひみつの本棚 第 208回

今月は偏見にとらわれていないか気づかせてくれる本を紹介します。

『マイロのスケッチブック』

マット・デ・ラ・ペーニャ／作 クリスチャン・ロビンソン／絵 石津 ちひろ／訳 鈴木出版
2021年 ¥1500(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★☆☆ 小低学年★★★★ 小中学年★★★ 小高学年★★★ 中学生★☆☆
高校★☆☆ 一般★☆☆
(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

毎月、最初の日曜日、マイロはお姉ちゃんと 2人で地下鉄に乗ってお出かけをします。お出かけは緊張や不安、わくわくが入り混じり、そんな気持ちをスケッチブックに乗客の絵を描くことで紛らわすマイロ。薄暗い駅で降りたおじさんは、古いアパートでねこやインコと食事をするんだろうな、ピシッとした恰好の男の子はお城で召使いに囲まれて暮らしているのかな、なんて想像をしながら。実はマイロが向かうのは刑務所。お母さんがその中にいるのです。そしてお城にすんでいると想像していた男の子も同じ場所に向かいます。人は見た目ではわからない。マイロと同時に、読者もはっとさせられます。

<子どもに手渡す時のポイント>

優れた児童文学作品に贈られるコールデコット賞やニューベリー賞などの受賞歴がある作者の絵本。アメリカでベストセラーにもなりました。外見だけで人を判断することはできないということを知り、考えてもらいたい時におすすめです。示唆に富んだ作品ですが、ポップな絵柄で気軽に手に取ってもらえると思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。